

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 公益財団法人三重県立美術館協力会 |
|-----|------------------|

【経営基本情報】

○団体の基本情報

| | | | |
|--------|---|-------|--------------|
| 所在地 | 津市大谷町11番地 | | |
| HPアドレス | https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/55012038087.htm | | |
| 電話番号 | 059-227-2232 | FAX番号 | 059-223-0570 |
| 設立年月日 | 昭和58年3月26日設立 平成23年9月1日公益財団法人へ移行 | | |
| 代表者 | 理事長 谷川 憲三 | 県所管部等 | 環境生活部 |
| 県出資額 | 15,000,000 円 | 県出資割合 | 36.1% |
| 団体の目的 | 県民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、本県美術文化の振興発展に寄与する。 | | |

○主な事業内容

[事業規模]

(単位:千円)

| 事業名 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 備考 |
|------------------|--------|--------|--------|-----|
| (1) ミュージアムショップ | 7,416 | 7,530 | 14,233 | |
| 全事業合計に占める割合 | 31.3% | 69.0% | 51.6% | |
| (2) 助成金 | 12,513 | 1,310 | 10,254 | |
| 全事業合計に占める割合 | 52.8% | 12.0% | 37.2% | |
| (3) 図録刊行 | 3,759 | 2,074 | 3,083 | |
| 全事業合計に占める割合 | 15.9% | 19.0% | 11.2% | |
| (4) (1)~(3)以外の事業 | | | | |
| 全事業合計に占める割合 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | |
| 全事業合計 | 23,688 | 10,914 | 27,571 | 事業費 |
| 全事業合計に占める割合 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | |

※各数値は千円未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。また、割合についても内訳の計が100%にならない場合があります。

[事業の概要]

- (1) ミュージアムショップにおける美術書籍、絵葉書等の販売
- (2) 企画展覧会等の支援、美術セミナー等の美術普及啓発への支援、美術館関係団体への支援
- (3) 企画展覧会に合わせた図録等の刊行、販売

○財務概況

| | | (単位:千円) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----------------------------|------------------------------|---------|---------|--------|---------|
| 正味財産増減計算書 | 経常収益 (a) | | 29,751 | 19,357 | 33,607 |
| | 経常費用 (b) | | 30,728 | 17,542 | 35,188 |
| | 当期経常増減額 (c) = (a) - (b) | | △ 977 | 1,815 | △ 1,581 |
| | 当期経常外増減額 (経常外収益 - 経常外費用) (d) | | △ 72 | △ 72 | △ 72 |
| | 当期一般正味財産増減額 (e) = (c) + (d) | | △ 1,049 | 1,743 | △ 1,653 |
| | 当期指定正味財産増減額 (f) | | 0 | 0 | 0 |
| 当期正味財産増減額合計 (g) = (e) + (f) | | | △ 1,049 | 1,743 | △ 1,653 |
| 貸借対照表 | 資産 | | 54,898 | 60,789 | 60,330 |
| | 負債 (h) | | 1,387 | 5,535 | 6,728 |
| | 指定正味財産 (i) | | 41,500 | 41,500 | 41,500 |
| | 一般正味財産 (j) | | 12,011 | 13,754 | 12,102 |
| | 正味財産 (k) = (i) + (j) | | 53,511 | 55,254 | 53,602 |
| 負債・正味財産合計 (l) = (h) + (k) | | | 54,898 | 60,789 | 60,330 |

※各数値は千円未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 公益財団法人三重県立美術館協力会 |
|-----|------------------|

○財務に関する主な指標

| 指標 | | 計算式 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----|------------|-------------------|--------|--------|--------|
| 安定性 | 正味財産比率 | 正味財産／(負債＋正味財産) | 97.5% | 90.9% | 88.8% |
| | 借入金依存率 | 借入金／(負債＋正味財産) | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 経常比率 | 経常収益／経常費用 | 96.8% | 110.3% | 95.5% |
| | 自己収益比率 | 自己収益／経常収益 | 89.4% | 99.7% | 90.9% |
| 収益性 | 当期経常増減率 | 当期経常増減額／経常収益 | △ 3.3% | 9.4% | △ 4.7% |
| | 総資産当期経常増減率 | 当期経常増減額／(負債＋正味財産) | △ 1.8% | 3.0% | △ 2.6% |
| 効率性 | 人件費比率 | 人件費／経常費用 | 15.4% | 27.0% | 16.4% |
| | 管理費比率 | 管理費／経常費用 | 22.9% | 37.8% | 21.6% |

○役職員の状況

(※派遣職員は含まない)

| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 備考 |
|---------|-------|-------|-------|--|
| 常勤役員 | 1人 | 1人 | 1人 | R3平均年齢※： — 歳 R3平均年収※： 法人の支給基準に従って支給 |
| うち、県退職者 | 1人 | 1人 | 1人 | |
| うち、県派遣 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| 常勤正規職員 | 0人 | 0人 | 0人 | R3平均年齢※： — 歳 R3平均年収※： — 千円 |
| うち、県退職者 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| うち、県派遣 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| その他職員 | 5人 | 6人 | 6人 | 嘱託職員 1人 非常勤職員 5人 |
| うち、県退職者 | 0人 | 1人 | 1人 | |

○県からの財政的支援など

| | (単位：千円) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------|---------|-------|-------|-------|
| 委託料 | | 0 | 0 | 0 |
| 補助金・助成金 | | 0 | 0 | 0 |
| 負担金 | | 0 | 0 | 0 |
| 借入金(期中に借り入れた額の合計) | | 0 | 0 | 0 |
| その他県支出金(追加出資額等) | | 0 | 0 | 0 |
| 計 | | 0 | 0 | 0 |
| 借入金残高(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |
| 債務保証額(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |
| 損失補償限度額 | | 0 | 0 | 0 |
| 損失補償契約に係る債務残高(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |

○団体の目標達成状況等

●中長期経営計画の策定の有無

| | | | | |
|---|------|----------|---|--------|
| 有 | 計画期間 | 平成23年9月～ | 無 | 策定予定時期 |
|---|------|----------|---|--------|

●中長期経営計画による目標及びその達成状況

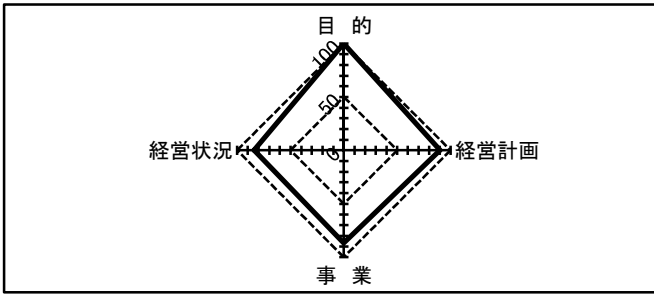
| | |
|----|--|
| 目標 | 経営基盤の確保(基本財産の増資、賛助会員の増加)、美術館活動に対する支援と協力(企画展覧会の周知及び広報、民間の資金協力を受けた大型展覧会の支援、県民の美術に関する意識の普及と啓発、美術館関係団体の活動に対する支援及び協力)を行う。 |
| 実績 | 賛助会員は個人会員が減少し、企画展覧会観覧者数の目標についても達成できなかったが、年度別総入館者数は、令和2年度と比較して、16,484人の増であった。 |

●年次事業計画による達成目標

| | | |
|------|---------|--|
| 定性目標 | 令和3年度目標 | 公益目的事業の運営基盤強化のため、賛助会員の増加、ミュージアムショップの収益アップ及び観覧者増加への取組(企画展広報の強化等)を行う。 |
| | 令和3年度実績 | 賛助会員は個人会員が減少した。一方で、ミュージアムのグッズ収入は令和2年度と比べ6,564千円の増であった。企画展覧会観覧者数の目標は達成できなかったが、年度別総入館者数は、令和2年度と比較して、16,484人の増であった。 |
| | 令和4年度目標 | 公益目的事業の運営基盤強化のため、賛助会員の増加、ミュージアムショップの収益アップ及び観覧者増加への取組(企画展広報の強化等)を行う。 |

| 定量目標 | 指標 | 数値目標 | 単位 | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|-------------|-----------|-------|--------|----|--------|--------|--------|
| | 企画展覧会観覧者数 | | 48,800 | 人 | 目標 | 57,000 | 40,000 |
| | | | | 実績 | 35,640 | 32,922 | |
| 美術セミナー等参加者数 | | 2,000 | 人 | 目標 | 2,000 | 2,000 | 2,000 |
| | | | | 実績 | 1,704 | 2,789 | |

【団体自己評価結果】



A(90%～100%) : 良好な事象や傾向がみられる
 C(30%～ 59%) : 改善を要する

| | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | |
|------|-------|----|-------|----|-------|----|
| | 比率 | 評価 | 比率 | 評価 | 比率 | 評価 |
| 目的 | 100 | A | 100 | A | 100 | A |
| 経営計画 | 90 | A | 90 | A | 90 | A |
| 事業 | 82 | B | 82 | B | 87 | B |
| 経営状況 | 84 | B | 88 | B | 84 | B |

B(60%～89%) : やや良好な事象や傾向がみられる
 D(0%～29%) : 大いに改善を要する

《団体自己評価表》

| | | | | | | | |
|---------------|-----------------------------------|---|----|---------------------------------------|-----|----|---|
| 1. 目的に対する評価 | | | | 比率 | 100 | 評価 | A |
| 1 | 団体の目的は現在でも社会的要請があるか | ① | 5 | 事業構成比率は団体の目的からみて適正か | ① | | |
| 2 | 民間企業等が事業の実施主体となることは不可能か | ① | 6 | 団体が設定している目標は、目的や行政目的の達成に寄与する指標となっているか | ① | | |
| 3 | 県との役割分担を踏まえ、団体で実施するメリットがあるか | ① | 7 | 社会経済状況に応じ経営改善に取り組んでいるか | ① | | |
| 4 | 事業内容は目的に対し意義・効果が認められるか | ① | 8 | 県民に対し情報公開・情報提供しているか | ① | | |
| 2. 経営計画に対する評価 | | | | 比率 | 90 | 評価 | A |
| 1 | 経営基本方針等を定め、役員・職員に浸透しているか | ① | 5 | 年次事業計画と実績との差異を分析し、改善しているか | ① | | |
| 2 | 中長期経営計画を策定し、運用しているか | ② | 6 | 中長期経営計画、年次事業計画は県の方針を反映したものとなっているか | ① | | |
| 3 | 外部環境、経営資源を把握、評価し、中長期経営計画に盛り込んでいるか | ① | 7 | 計画目標達成のため、人材育成・能力開発を行っているか | ① | | |
| 4 | 中長期経営計画と実績との差異を分析し、計画を見直しているか | ① | 8 | 計画の実施にあたり、進捗管理の体制が十分に整備されているか | ② | | |
| 3. 事業に対する評価 | | | | 比率 | 87 | 評価 | B |
| 1 | 団体の事業全体について、成果は十分に上がっているか | ② | 6 | 内部統制は十分に実施されているか | ① | | |
| 2 | 事業毎に目標を設定しているか | ① | 7 | 危機管理体制は十分に整備されているか | ② | | |
| 3 | 目標の達成状況を評価・活用しているか | ① | 8 | 組織体制は十分に整備されているか | ① | | |
| 4 | 顧客ニーズ及び顧客満足度を把握しているか | ① | 9 | 管理費比率及び人件費比率は適正か | ② | | |
| 5 | 顧客からの問い合わせ、意見等への対応は適切か | ① | 10 | 事業毎に損益を分析し、活用しているか | - | | |
| 4. 経営状況に対する評価 | | | | 比率 | 84 | 評価 | B |
| 1 | 収支の状況は健全であるか | ③ | 6 | 開発用不動産等及び有価証券等の含み損益を把握しているか | ① | | |
| 2 | 累積欠損金が発生していないか、債務超過ではないか | ① | 7 | 債権管理は十分か | ① | | |
| 3 | 財務基盤についての指標は適正か | ① | 8 | 借入金は返済可能か | ① | | |
| 4 | 収益における県への依存度は適正か | ① | 9 | 基本財産や運用財産を適正に運用しているか | ① | | |
| 5 | 総資産当期経常増減率は適正か | ③ | 10 | 必要な額の特定資産が設定されているか | ① | | |

※ 回答①=5点、②=3点、③=1点、④=0点とし各部門ごとに比率を算出しています。
 比率=(合計点)÷(総回答数×5点) ×100

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 公益財団法人三重県立美術館協力会 |
|-----|------------------|

《団体自己評価コメント》

| 令和3年度コメント | |
|-----------|--|
| 目的 | 県民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、本県美術文化の振興を図るための美術館活動に対し、創意と弾力性を加味した効果的な支援を行うことを目的としている。 |
| 経営計画 | 公益法人は、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」第14条で、「その公益目的事業を行うに当たり、当該公益目的事業の実施に要する適正な費用を償う額を超える収入を得てはならない」と規定されているため、その分、収益事業を黒字にし、経営を安定させる必要がある。このため、ミュージアムショップについて企画展覧会毎に工夫するなどし、収益アップに努めた。 |
| 事業 | 令和3年度の事業費は27,571千円で令和2年度の10,914千円の2.5倍となっている。令和2年度と比較して「図録等頒布収入」は1,291千円の増、「ミュージアムグッズ販売収入」は3,094千円の増、「ミュージアムショップ物品販売収入」は3,470千円の増、「前売券販売収入」は206千円の増であった。コロナ禍は続いているが、順調に公益目的事業及び収益事業を伸ばすことができた。 |
| 経営状況 | 令和3年度の公益目的事業の経常収益は24,299千円、経常費用は25,439千円で、収支相償は達成できた。また、全事業の経常収益の計は33,607千円、経常費用の計は35,188千円で、1,581千円の赤字となっているが、令和2年度の決算では1,815千円の黒字だったため、これを令和3年度へ繰り越して差引きすると、234千円のプラスとなり、安定した経営が維持できているものと考えている。 |
| 総括コメント | コロナ禍の中ではあるが、広報活動への支援、美術館関係団体への支援等を積極的に行うとともに、事業費を伸ばすことができた。企画展覧会観覧者数の目標は達成できなかったが、年度別総入館者数は、令和2年度と比較して、16,484人の増であった。今後も引き続き、美術館関係団体と協力して公的目的事業に取り組むとともに、観覧者数の増加と収益の確保にも努めていく。 |

【知事等の審査及び評価結果】

+ : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)
 空白 : 団体自己評価結果と概ね同じ評価

| | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和3年度コメント |
|------|--------|-------|-------|-------|--|
| 目的 | 団体自己評価 | A | A | A | 当法人は、図録等の刊行、美術館、美術館関係団体への助成などにより、県民の美術に対する知識や教養の向上をはじめ、県美術文化の振興発展に寄与している。美術館と連携して積極的に広報活動を支援するなど、当法人の県内美術活動における重要性は高まっている。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 経営計画 | 団体自己評価 | A | A | A | コロナ禍においても、ミュージアムショップ物品販売等において収入を確保した点は評価できる。引き続き、賛助会員については会員の確保に努めるとともに、ミュージアムショップについては顧客ニーズの把握により経営の安定を図られたい。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 事業 | 団体自己評価 | B | B | B | 令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響によりミュージアムショップの一時休業を余儀なくされたが、感染拡大に留意しつつ、入館者へのサービスに努めている。引き続き、企画展覧会の広報等への支援やミュージアムショップの運営に取り組まれない。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 経営状況 | 団体自己評価 | B | B | B | 当期経常増減額はマイナスとなったが、コロナ禍においても広報活動への支援、美術館関係団体への支援等を積極的に実施している。アフターコロナを見据え、引き続き、積極的に事業を展開するとともに、経営基盤の強化を図られたい。 |
| | 県の評価 | | | | |

《知事等の総括コメント》

当法人は、県立美術館の運営における広報や美術の普及啓発などにおいて重要な役割を果たしている。新型コロナウイルス感染症の影響により企画展の縮小や休館などがあったものの、感染拡大に留意しつつ、入館者へのサービスに努められ、事業収益や入館者数は増えている。引き続き、企画展覧会の広報活動への支援や美術関係者への支援に取り組むとともに、賛助会員の確保に努め、経営の安定化を図られたい。

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 公益財団法人国史跡齋宮跡保存協会 |
|-----|------------------|

【経営基本情報】

○団体の基本情報

| | | | |
|--------|--|-------|--------------|
| 所在地 | 多気郡明和町齋宮2811番地 | | |
| HPアドレス | https://www.itukinomiya.com/ | | |
| 電話番号 | 0596-63-5315 | FAX番号 | 0596-63-5316 |
| 設立年月日 | 平成元年7月1日設立 平成25年4月1日公益財団法人へ移行 | | |
| 代表者 | 代表理事 大和谷 正 | 県所管部等 | 環境生活部 |
| 県出資額 | 50,000,000 円 | 県出資割合 | 46.0% |
| 団体の目的 | 国史跡齋宮跡の保存と活用を行うとともに、歴史と文化に関する知識の普及向上を図るため、必要な事業を行い、もって県民の文化の振興に寄与することを目的とする。 | | |

○主な事業内容

[事業規模]

(単位:千円)

| 事業名 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 備考 |
|------------------|---------|---------|---------|---------------|
| (1) 史跡文化普及事業(1) | 37,592 | 36,437 | 38,085 | |
| 全事業合計に占める割合 | 34.1% | 33.5% | 32.6% | |
| (2) 史跡文化普及事業(2) | 31,743 | 35,244 | 32,214 | |
| 全事業合計に占める割合 | 28.8% | 32.4% | 27.6% | |
| (3) 普及啓発事業 | 13,615 | 12,057 | 18,575 | |
| 全事業合計に占める割合 | 12.3% | 11.1% | 15.9% | |
| (4) (1)~(3)以外の事業 | 27,363 | 25,173 | 27,827 | |
| 全事業合計に占める割合 | 24.8% | 23.0% | 23.8% | |
| 全事業合計 | 110,313 | 108,911 | 116,702 | 経常費用(事業費+管理費) |
| 全事業合計に占める割合 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | |

※各数値は千円未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。また、割合についても内訳の計が100%にならない場合があります。

[事業の概要]

- いつきのみや歴史体験館及び1/10模型、さいくう平安の杜、いつきのみや地域交流センター維持管理
- 国史跡齋宮跡公有地内の維持管理、博物館庭園管理、休憩所管理、発掘調査労務管理
- いつきのみや歴史体験館における体験学習事業、イベント事業や図書出版
- 軽食、オリジナル商品販売、さいくう市事業、賃貸、受託販売事業である収益事業や一般管理、博物館受付業務

○財務概況

| | | (単位:千円) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----------|-----------------------------|-----------------|---------|---------|---------|
| 正味財産増減計算書 | 経常収益 | (a) | 112,855 | 107,824 | 115,539 |
| | 経常費用 | (b) | 110,313 | 108,911 | 116,702 |
| | 当期経常増減額 | (c) = (a) - (b) | 2,542 | △ 1,087 | △ 1,162 |
| | 当期経常外増減額 (経常外収益 - 経常外費用) | (d) | △ 326 | 510 | △ 156 |
| | 当期一般正味財産増減額 | (e) = (c) + (d) | 2,216 | △ 577 | △ 1,318 |
| | 当期指定正味財産増減額 | (f) | 0 | 0 | 0 |
| | 当期正味財産増減額合計 | (g) = (e) + (f) | 2,216 | △ 577 | △ 1,318 |
| 貸借対照表 | 資産 | | 131,220 | 132,571 | 131,453 |
| | 負債 | (h) | 11,086 | 13,014 | 13,214 |
| | 指定正味財産 | (i) | 108,798 | 108,798 | 108,798 |
| | 一般正味財産 | (j) | 11,336 | 10,759 | 9,441 |
| | 正味財産 | (k) = (i) + (j) | 120,134 | 119,557 | 118,239 |
| 負債・正味財産合計 | (l) = (h) + (k) | 131,220 | 132,571 | 131,453 | |

※各数値は千円未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 公益財団法人国史跡齋宮跡保存協会 |
|-----|------------------|

○財務に関する主な指標

| 指標 | | 計算式 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----|------------|-------------------|--------|--------|--------|
| 安定性 | 正味財産比率 | 正味財産／(負債＋正味財産) | 91.6% | 90.2% | 89.9% |
| | 借入金依存率 | 借入金／(負債＋正味財産) | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 経常比率 | 経常収益／経常費用 | 102.3% | 99.0% | 99.0% |
| | 自己収益比率 | 自己収益／経常収益 | 9.4% | 4.7% | 5.9% |
| 収益性 | 当期経常増減率 | 当期経常増減額／経常収益 | 2.3% | △ 1.0% | △ 1.0% |
| | 総資産当期経常増減率 | 当期経常増減額／(負債＋正味財産) | 1.9% | △ 0.8% | △ 0.9% |
| 効率性 | 人件費比率 | 人件費／経常費用 | 56.1% | 60.1% | 57.3% |
| | 管理費比率 | 管理費／経常費用 | 19.9% | 19.4% | 19.5% |

○役職員の状況

(※派遣職員は含まない)

| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 備考 |
|---------|-------|-------|-------|------------------------------------|
| 常勤役員 | 1人 | 1人 | 1人 | R3平均年齢※: — 歳 R3平均年収※: 法人支給規定による |
| うち、県退職者 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| うち、県派遣 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| 常勤正規職員 | 0人 | 0人 | 0人 | R3平均年齢※: — 歳 R3平均年収※: — |
| うち、県退職者 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| うち、県派遣 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| その他職員 | 34人 | 33人 | 31人 | 嘱託職員13人、臨時職員18人 |
| うち、県退職者 | 1人 | 1人 | 0人 | |

○県からの財政的支援など

| | (単位:千円) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------|---------|--------|--------|--------|
| 委託料 | | 16,612 | 20,615 | 20,185 |
| 補助金・助成金 | | 0 | 0 | 0 |
| 負担金 | | 0 | 0 | 0 |
| 借入金(期中に借り入れた額の合計) | | 0 | 0 | 0 |
| その他県支出金(追加出資額等) | | 0 | 0 | 0 |
| 計 | | 16,612 | 20,615 | 20,185 |
| 借入金残高(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |
| 債務保証額(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |
| 損失補償限度額 | | 0 | 0 | 0 |
| 損失補償契約に係る債務残高(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |

○団体の目標達成状況等

●中長期経営計画の策定の有無

| | | | | |
|---|------|--------------|---|--------|
| 有 | 計画期間 | 平成30年度～令和4年度 | 無 | 策定予定時期 |
|---|------|--------------|---|--------|

●中長期経営計画による目標及びその達成状況

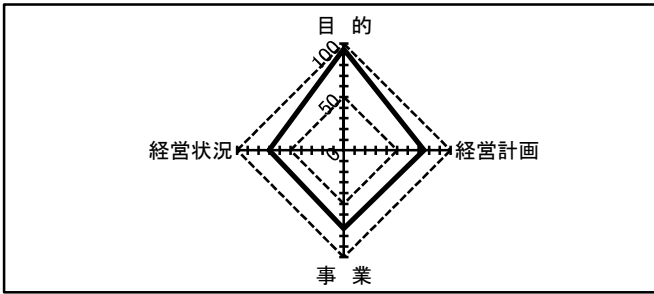
| 目標 | 実績 |
|--|--|
| 小中学校体験学習支援事業受入校数 44校、齋宮今昔体感事業入場者数 6,800人、観月会・追雛のまつり等参加者数 6,300人、年間体験館等入場者数 66,500人、いつき茶屋・さいくう市売上 3,650千円 | 小中学校体験学習支援事業受入校数 49校、齋宮今昔体感事業入場者数 3,808人、観月会・追雛のまつり等参加者数 565人、年間体験館等入場者数 33,204人、いつき茶屋・さいくう市売上 3,920千円 |

●年次事業計画による達成目標

| 定性目標 | 令和3年度目標 | 令和3年度実績 | 令和4年度目標 |
|------|---|--|--|
| | 新型コロナウイルス感染状況に留意しつつも、三重県の指針に沿って各種計画事業の推進を図り、健全な財政運営が継続できるよう努める。 | 令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止策として各施設の閉館、各講座・イベント等の中止により自己収益が減少した。また、その他収益では今年度は持続化給付金の給付がなく、自己収益の減少分は補えきれず、赤字決算となった。 | 収支バランスを重視し、来るべきアフターコロナ時においても新しい生活様式の下で健全な運営が継続するよう努める。 |

| 定量目標 | 指標 | 数値目標 | 単位 | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---------------------------|------------|-------|--------|----|--------|--------|--------|
| | 年間体験館等入場者数 | | 68,000 | 人 | 目標 | 65,000 | 66,500 |
| | | | | 実績 | 29,420 | 33,204 | |
| 講座受講者の満足度(アンケートによる回答者の割合) | | 96 | % | 目標 | 94 | 95 | 96 |
| | | | | 実績 | 94 | 88 | |
| 観月会、追雛のまつり参加者数 | | 6,400 | 人 | 目標 | 6,200 | 6,300 | 6,400 |
| | | | | 実績 | 0 | 565 | |

【団体自己評価結果】



A(90%～100%) : 良好な事象や傾向がみられる
 C(30%～ 59%) : 改善を要する

| | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | |
|------|-------|----|-------|----|-------|----|
| | 比率 | 評価 | 比率 | 評価 | 比率 | 評価 |
| 目的 | 95 | A | 95 | A | 95 | A |
| 経営計画 | 75 | B | 80 | B | 75 | B |
| 事業 | 78 | B | 73 | B | 73 | B |
| 経営状況 | 82 | B | 74 | B | 70 | B |

B(60%～89%) : やや良好な事象や傾向がみられる
 D(0%～29%) : 大いに改善を要する

《団体自己評価表》

| | | | | | | | |
|---------------|-----------------------------------|---|----|---------------------------------------|----|----|---|
| 1. 目的に対する評価 | | | | 比率 | 95 | 評価 | A |
| 1 | 団体の目的は現在でも社会的要請があるか | ① | 5 | 事業構成比率は団体の目的からみて適正か | ① | | |
| 2 | 民間企業等が事業の実施主体となることは不可能か | ① | 6 | 団体が設定している目標は、目的や行政目的の達成に寄与する指標となっているか | ① | | |
| 3 | 県との役割分担を踏まえ、団体で実施するメリットがあるか | ① | 7 | 社会経済状況に応じ経営改善に取り組んでいるか | ② | | |
| 4 | 事業内容は目的に対し意義・効果が認められるか | ① | 8 | 県民に対し情報公開・情報提供しているか | ① | | |
| 2. 経営計画に対する評価 | | | | 比率 | 75 | 評価 | B |
| 1 | 経営基本方針等を定め、役員・職員に浸透しているか | ① | 5 | 年次事業計画と実績との差異を分析し、改善しているか | ③ | | |
| 2 | 中長期経営計画を策定し、運用しているか | ③ | 6 | 中長期経営計画、年次事業計画は県の方針を反映したものとなっているか | ① | | |
| 3 | 外部環境、経営資源を把握、評価し、中長期経営計画に盛り込んでいるか | ① | 7 | 計画目標達成のため、人材育成・能力開発を行っているか | ① | | |
| 4 | 中長期経営計画と実績との差異を分析し、計画を見直しているか | ② | 8 | 計画の実施にあたり、進捗管理の体制が十分に整備されているか | ① | | |
| 3. 事業に対する評価 | | | | 比率 | 73 | 評価 | B |
| 1 | 団体の事業全体について、成果は十分に上がっているか | ③ | 6 | 内部統制は十分に実施されているか | ① | | |
| 2 | 事業毎に目標を設定しているか | ② | 7 | 危機管理体制は十分に整備されているか | ② | | |
| 3 | 目標の達成状況を評価・活用しているか | ② | 8 | 組織体制は十分に整備されているか | ① | | |
| 4 | 顧客ニーズ及び顧客満足度を把握しているか | ① | 9 | 管理費比率及び人件費比率は適正か | ② | | |
| 5 | 顧客からの問い合わせ、意見等への対応は適切か | ① | 10 | 事業毎に損益を分析し、活用しているか | - | | |
| 4. 経営状況に対する評価 | | | | 比率 | 70 | 評価 | B |
| 1 | 収支の状況は健全であるか | ④ | 6 | 開発用不動産等及び有価証券等の含み損益を把握しているか | ② | | |
| 2 | 累積欠損金が発生していないか、債務超過ではないか | ① | 7 | 債権管理は十分か | ① | | |
| 3 | 財務基盤についての指標は適正か | ③ | 8 | 借入金は返済可能か | ① | | |
| 4 | 収益における県への依存度は適正か | ① | 9 | 基本財産や運用財産を適正に運用しているか | ① | | |
| 5 | 総資産当期経常増減率は適正か | ③ | 10 | 必要な額の特定資産が設定されているか | ① | | |

※ 回答①=5点、②=3点、③=1点、④=0点とし各部門ごとに比率を算出しています。
 比率=(合計点)÷(総回答数×5点) ×100

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 公益財団法人国史跡齋宮跡保存協会 |
|-----|------------------|

《団体自己評価コメント》

| | | 令和3年度コメント |
|--------|--|---|
| 目的 | | 国史跡齋宮跡の普及啓発事業を推進するため公有地の有効活用を進めるとともに、齋宮が最も栄えた平安時代を中心とした歴史体験事業やイベントの開催などを通じて、県民の文化振興に寄与している。 |
| 経営計画 | | 令和3年度は、中長期経営計画における目標について5項目中2項目が目標を達成した。未達成項目の主たる要因は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として各施設について休館等の対応や体験講座の中止、イベント等の中止を行ったため来訪者数が伸びなかったことによる。 |
| 事業 | | 年間体験館等入場者数は、新型コロナウイルス感染症の影響で目標の66,500人を下回る33,204人であった。また、いつき茶屋・さいくう市の売上は、目標の3,650千円を上回る3,920千円となった。観月会・追儺のまつり等については、目標6,300人のところ565人、齋宮今昔体感事業入場者数は目標6,800人のところ3,808人と、いずれも目標を大きく下回った。小中学校体験学習支援事業受入校数は目標の44校を上回る49校で目標を達成した。これは、コロナ禍の中、修学旅行が県外から県内に変更になった県内の学校の利用があったためである。 |
| 経営状況 | | 本法人の財政状況は本年度は1,162千円の赤字になった。これは、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、各施設について、休館等の対応や各種体験講座の中止、イベントの中止等もあり、来訪者数が伸びなかったためである。本年度も収入の減少傾向は改善されず、また、昨年度のような持続化給付金もなかったため、自己収益の減少を補えず赤字決算となった。 |
| 総括コメント | | 中長期経営計画における目標について、5項目中2項目での達成にとどまった。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として各施設において休館等の対応や各種体験講座の中止、イベント等の中止を行った影響が大きい。その結果、自己収益の減収により本年度は1,162千円の赤字となった。今後とも新型コロナウイルス感染症の状況に留意しつつも、三重県の指針に沿って各種計画事業の推進を図り、健全な財政運営が継続できるよう努める。 |

【知事等の審査及び評価結果】

+ : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)
 空白: 団体自己評価結果と概ね同じ評価

| | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和3年度コメント |
|------|--------|-------|-------|-------|--|
| 目的 | 団体自己評価 | A | A | A | 国史跡齋宮跡において公有地の有効活用を進めるとともに、齋宮の平安時代の年中行事を中心とした歴史体験事業等を通じて、齋宮の最盛期の雰囲気由来訪者に体験・体感してもらう重要な役割を担っている。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 経営計画 | 団体自己評価 | B | B | B | 昨年度に引き続き、重点目標である年間体験館等入場者数が目標値を大きく下回っている。新型コロナウイルス感染症の影響を一定受けることはやむを得ないが、実態に即した計画の改定も視野に入れながら、さらなる経営改善に取り組まれない。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 事業 | 団体自己評価 | B | B | B | 新型コロナウイルス感染症の影響により、年間体験館等入場者数等が目標値を大きく下回った一方で、小中学校体験学習支援事業受入校数が目標を上回ったことは評価できる。引き続き、アフターコロナを見据えた事業の見直しや実施手法等の検討に取り組まれない。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 経営状況 | 団体自己評価 | B | B | B | 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う休館やイベントの中止等の影響により入場者数等が減少し、令和2年度に引き続き、当期経常増減額がマイナスとなっている。新型コロナウイルス感染症の影響を注視しながら、より効率的な経営に努められたい。 |
| | 県の評価 | | | | |

《知事等の総括コメント》

本法人は国史跡齋宮跡の保存・活用を行うとともに、齋宮の栄えた平安時代の雰囲気由来訪者に体験・体感してもらう重要な役割を担っている。公益財団法人として公益性と収益性のバランスに留意し、県民の文化振興に寄与することを期待する。アフターコロナを見据え、引き続き、既存事業の見直しや手法等の検討を行い、収支のバランスを意識した運営に努められたい。

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 公益財団法人三重県文化振興事業団 |
|-----|------------------|

【経営基本情報】

○団体の基本情報

| | | | |
|--------|--|-------|--------------|
| 所在地 | 津市一身田上津部田1234番地 | | |
| HPアドレス | https://www.center-mie.or.jp | | |
| 電話番号 | 059-233-1103 | FAX番号 | 059-233-1106 |
| 設立年月日 | 平成4年3月25日設立 平成23年7月1日公益財団法人へ移行 | | |
| 代表者 | 理事長 雲井 敬 | 県所管部等 | 環境生活部 |
| 県出資額 | 2,000,000,000 円 | 県出資割合 | 100.0% |
| 団体の目的 | 文化芸術、生涯学習及び男女共同参画社会づくりに関する事業を行うことにより、県民の文化芸術の振興、生涯学習の推進及び男女共同参画社会の実現に寄与することを目的とする。 | | |

○主な事業内容

[事業規模]

(単位:千円)

| 事業名 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 備考 |
|------------------|-----------|-----------|-----------|-------------------------|
| (1) 管理運営事業 | 992,719 | 908,441 | 965,143 | |
| 全事業合計に占める割合 | 70.5% | 73.1% | 70.6% | |
| (2) 博物館美術館施設管理事業 | 167,434 | 232,970 | 246,144 | |
| 全事業合計に占める割合 | 11.9% | 18.8% | 18.0% | |
| (3) 文化会館事業 | 195,680 | 69,769 | 115,011 | |
| 全事業合計に占める割合 | 13.9% | 5.6% | 8.4% | |
| (4) (1)~(3)以外の事業 | 51,478 | 30,591 | 40,562 | |
| 全事業合計に占める割合 | 3.7% | 2.5% | 3.0% | |
| 全事業合計 | 1,407,311 | 1,241,771 | 1,366,860 | 経常費用(事業費+管理費)+ 経常外費用 |
| 全事業合計に占める割合 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | |

※各数値は千円未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。また、割合についても内訳の計が100%にならない場合があります。

[事業の概要]

- (1) 三重県総合文化センターの管理運営及び施設貸出サービス
- (2) 総合博物館及び県立美術館施設管理事業
- (3) 文化会館が提供する各種サービス(音楽・演劇等の提供、文化芸術に関する人材育成研修等)
- (4) 生涯学習センターが提供する各種サービス(生涯学習講座の提供、視聴覚ライブラリーの運営等)及び男女共同参画センターが提供する各種サービス、総合文化センター利用促進のためのPR事業

○財務概況

| | | (単位:千円) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----------|-----------------------------|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| 正味財産増減計算書 | 経常収益 | (a) | 1,433,120 | 1,312,927 | 1,431,583 |
| | 経常費用 | (b) | 1,407,311 | 1,241,771 | 1,366,788 |
| | 当期経常増減額 | (c) = (a) - (b) | 25,809 | 71,156 | 64,795 |
| | 当期経常外増減額 (経常外収益 - 経常外費用) | (d) | 0 | 0 | △ 72 |
| | 当期一般正味財産増減額 | (e) = (c) + (d) | 25,809 | 71,156 | 64,723 |
| | 当期指定正味財産増減額 | (f) | 0 | 0 | 0 |
| | 当期正味財産増減額合計 | (g) = (e) + (f) | 25,809 | 71,156 | 64,723 |
| 貸借対照表 | 資産 | | 2,870,007 | 2,889,664 | 2,975,992 |
| | 負債 | (h) | 331,945 | 280,446 | 302,052 |
| | 指定正味財産 | (i) | 2,000,000 | 2,000,000 | 2,000,000 |
| | 一般正味財産 | (j) | 538,062 | 609,218 | 673,941 |
| | 正味財産 | (k) = (i) + (j) | 2,538,062 | 2,609,218 | 2,673,941 |
| 負債・正味財産合計 | (l) = (h) + (k) | 2,870,007 | 2,889,664 | 2,975,992 | |

※各数値は千円未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 公益財団法人三重県文化振興事業団 |
|-----|------------------|

○財務に関する主な指標

| 指標 | | 計算式 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----|------------|-------------------|--------|--------|--------|
| 安定性 | 正味財産比率 | 正味財産／(負債＋正味財産) | 88.4% | 90.3% | 89.9% |
| | 借入金依存率 | 借入金／(負債＋正味財産) | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 経常比率 | 経常収益／経常費用 | 101.8% | 105.7% | 104.7% |
| | 自己収益比率 | 自己収益／経常収益 | 21.6% | 8.2% | 13.3% |
| 収益性 | 当期経常増減率 | 当期経常増減額／経常収益 | 1.8% | 5.4% | 4.5% |
| | 総資産当期経常増減率 | 当期経常増減額／(負債＋正味財産) | 0.9% | 2.5% | 2.2% |
| 効率性 | 人件費比率 | 人件費／経常費用 | 25.0% | 28.0% | 25.5% |
| | 管理費比率 | 管理費／経常費用 | 22.0% | 25.9% | 15.6% |

○役職員の状況

(※派遣職員は含まない)

| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 備考 |
|---------|-------|-------|-------|---------------------------------------|
| 常勤役員 | 1人 | 1人 | 1人 | R3平均年齢※: ー 歳 R3平均年収※: 法人の支給規程により支給 |
| うち、県退職者 | 1人 | 1人 | 1人 | |
| うち、県派遣 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| 常勤正規職員 | 19人 | 19人 | 18人 | R3平均年齢※: 45.3 歳 R3平均年収※: 5,202 千円 |
| うち、県退職者 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| うち、県派遣 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| その他職員 | 51人 | 51人 | 49人 | 年俸制管理職5人、専門員40人 嘱託員4人 |
| うち、県退職者 | 4人 | 4人 | 4人 | |

○県からの財政的支援など

| | (単位:千円) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 指定管理料・委託料 | | 1,065,686 | 1,162,778 | 1,189,213 |
| 補助金・助成金 | | 0 | 0 | 0 |
| 負担金 | | 0 | 0 | 0 |
| 借入金(期中に借り入れた額の合計) | | 0 | 0 | 0 |
| その他県支出金(追加出資額等) | | 0 | 0 | 0 |
| 計 | | 1,065,686 | 1,162,778 | 1,189,213 |
| 借入金残高(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |
| 債務保証額(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |
| 損失補償限度額 | | 0 | 0 | 0 |
| 損失補償契約に係る債務残高(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |

○団体の目標達成状況等

●中長期経営計画の策定の有無

| | | | | |
|---|------|-------------|---|--------|
| 有 | 計画期間 | 令和2年度～令和7年度 | 無 | 策定予定時期 |
|---|------|-------------|---|--------|

●中長期経営計画による目標及びその達成状況

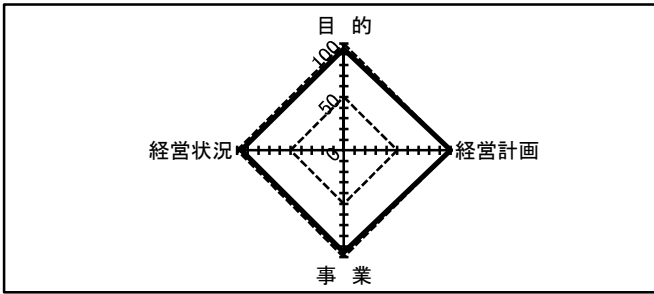
| | |
|----|---|
| 目標 | 県立図書館を除く来館者数739,000人、来館者アンケート満足度90%、貸出施設利用率80%、貸出施設利用者満足度83%、文化会館事業参加者満足度95%、文化会館公演事業入場率80%、生涯学習主催事業参加者数18,200人、生涯学習事業受講者満足度77%、男女共同参画センター主催事業参加者数12,400人、男女共同参画センター事業参加者満足度81%、美術館貸施設利用率70%、博物館・美術館・図書館との事業連携数5回(令和3年度) |
| 実績 | 令和3年度実績として新型コロナウイルス感染症の影響により量的目標数値は目標を大きく下回ったが、質的目標数値である満足度はいずれも目標を達成した。 県立図書館を除く来館者数279,950人、来館者アンケート満足度96.3%、貸出施設利用率57.7%、貸出施設利用者満足度91.1%、文化会館事業参加者満足度96.3%、文化会館公演事業入場率66%、生涯学習主催事業参加者数12,993人、生涯学習事業受講者満足度78.2%、男女共同参画センター主催事業参加者数13,007人、男女共同参画センター事業参加者満足度81.5%、美術館貸施設利用率45.2%、博物館・美術館・図書館との事業連携数4回と12目標のうち6つの目標について達成。 |

●年次事業計画による達成目標

| | | |
|------|---------|---|
| 定性目標 | 令和3年度目標 | 令和2年度から5年間、「文化交流ゾーンを構成する県立文化施設の指定管理者」を受託したが、初年度に続き令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況が続いている。事業団の6つのミッションをこれまで以上に実現していくため、利用者の安全・安心を守り、全職員が危機意識やノウハウを共有し、新価値の創造やスキルを一層磨き上げ、各部門における業務の見直しを進め、関係者と協働して全力で取り組んでいく。また、職員のワークライフバランスを実現する。 |
| | 令和3年度実績 | 令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、自主事業や貸館事業の中止・キャンセルが相次いだ時期があった。来館者数は令和元年度までの3年間平均と比べて37%程度となり、利用料金収入についても令和元年度までの3年間平均と比べて76%程度となったが、令和2年度と比べると約70%増加している。利用者の安全・安心を守るサービスを心がけ、質的目標である利用者満足度はいずれも達成した。また、当期経常増減額は昨年に引き続き黒字を達成し、高水準のサービス提供を継続している。 |
| | 令和4年度目標 | 事業団の6つのミッションをこれまで以上に実現していくため、利用者の安全・安心を守り、すべての職員が「事業団は何のため、誰のためにあるのか」を改めて問いかけ、新価値の創造やスキルを一層磨き上げ、業務の見直しと組織的な取組を進め、関係者と協働して全力で取り組んでいく。また、職員のワークライフバランスを実現する。 |

| 定量目標 | 指標 | 数値目標 | 単位 | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---------|-----------------------|------|---------|----|---------|---------|---------|
| | 総合文化センター来館者数(県立図書館除く) | | 741,000 | 人 | 目標 | 737,000 | 739,000 |
| | | | | 実績 | 160,392 | 279,950 | |
| 公演事業入場率 | | 80.0 | % | 目標 | 80.0 | 80.0 | 80.0 |
| | | | | 実績 | 84.0 | 66.0 | |
| 貸出施設利用率 | | 80.0 | % | 目標 | 80.0 | 80.0 | 80.0 |
| | | | | 実績 | 49.6 | 57.7 | |

【団体自己評価結果】



A(90%～100%): 良好な事象や傾向がみられる
 C(30%～ 59%): 改善を要する

| | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | |
|------|-------|----|-------|----|-------|----|
| | 比率 | 評価 | 比率 | 評価 | 比率 | 評価 |
| 目的 | 95 | A | 95 | A | 95 | A |
| 経営計画 | 100 | A | 100 | A | 100 | A |
| 事業 | 100 | A | 91 | A | 96 | A |
| 経営状況 | 100 | A | 96 | A | 96 | A |

B(60%～89%): やや良好な事象や傾向がみられる
 D(0%～29%): 大いに改善を要する

《団体自己評価表》

| | | | | | | | |
|---------------|-----------------------------------|---|----|---------------------------------------|-----|----|---|
| 1. 目的に対する評価 | | | | 比率 | 95 | 評価 | A |
| 1 | 団体の目的は現在でも社会的要請があるか | ① | 5 | 事業構成比率は団体の目的からみて適正か | | ① | |
| 2 | 民間企業等が事業の実施主体となることは不可能か | ② | 6 | 団体が設定している目標は、目的や行政目的の達成に寄与する指標となっているか | | ① | |
| 3 | 県との役割分担を踏まえ、団体で実施するメリットがあるか | ① | 7 | 社会経済状況に応じ経営改善に取り組んでいるか | | ① | |
| 4 | 事業内容は目的に対し意義・効果が認められるか | ① | 8 | 県民に対し情報公開・情報提供しているか | | ① | |
| 2. 経営計画に対する評価 | | | | 比率 | 100 | 評価 | A |
| 1 | 経営基本方針等を定め、役員・職員に浸透しているか | ① | 5 | 年次事業計画と実績との差異を分析し、改善しているか | | ① | |
| 2 | 中長期経営計画を策定し、運用しているか | ① | 6 | 中長期経営計画、年次事業計画は県の方針を反映したものとなっているか | | ① | |
| 3 | 外部環境、経営資源を把握、評価し、中長期経営計画に盛り込んでいるか | ① | 7 | 計画目標達成のため、人材育成・能力開発を行っているか | | ① | |
| 4 | 中長期経営計画と実績との差異を分析し、計画を見直しているか | ① | 8 | 計画の実施にあたり、進捗管理の体制が十分に整備されているか | | ① | |
| 3. 事業に対する評価 | | | | 比率 | 96 | 評価 | A |
| 1 | 団体の事業全体について、成果は十分に上がっているか | ② | 6 | 内部統制は十分に実施されているか | | ① | |
| 2 | 事業毎に目標を設定しているか | ① | 7 | 危機管理体制は十分に整備されているか | | ① | |
| 3 | 目標の達成状況を評価・活用しているか | ① | 8 | 組織体制は十分に整備されているか | | ① | |
| 4 | 顧客ニーズ及び顧客満足度を把握しているか | ① | 9 | 管理費比率及び人件費比率は適正か | | ① | |
| 5 | 顧客からの問い合わせ、意見等への対応は適切か | ① | 10 | 事業毎に損益を分析し、活用しているか | | - | |
| 4. 経営状況に対する評価 | | | | 比率 | 96 | 評価 | A |
| 1 | 収支の状況は健全であるか | ① | 6 | 開発用不動産等及び有価証券等の含み損益を把握しているか | | ① | |
| 2 | 累積欠損金が発生していないか、債務超過ではないか | ① | 7 | 債権管理は十分か | | ② | |
| 3 | 財務基盤についての指標は適正か | ① | 8 | 借入金は返済可能か | | ① | |
| 4 | 収益における県への依存度は適正か | ① | 9 | 基本財産や運用財産を適正に運用しているか | | ① | |
| 5 | 総資産当期経常増減率は適正か | ① | 10 | 必要な額の特定資産が設定されているか | | ① | |

※ 回答①=5点、②=3点、③=1点、④=0点とし各部門ごとに比率を算出しています。
 比率=(合計点)÷(総回答数×5点) ×100

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 公益財団法人三重県文化振興事業団 |
|-----|------------------|

《団体自己評価コメント》

| | | 令和3年度コメント |
|--------|--|--|
| 目的 | | 文化芸術、生涯学習及び男女共同参画社会づくりに関する社会的要請に合致している。特に文化芸術の分野では、平成24年6月に施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」に基づき、音楽、演劇など実演芸術の必要性が高まっており、社会的要請が増加している状況にある。 |
| 経営計画 | | 令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、量的目標数値は目標を大きく下回ったが、質的目標数値である満足度はいずれも目標を達成しており、中長期経営計画による12項目の目標のうち6項目について目標を達成している。未達項目については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、貸館のキャンセルや自主事業の中止等によるものである。 |
| 事業 | | 新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業について中止・延期・ガイドラインに沿った入場制限等により来館者数が激減することとなった。貸館についてはホール利用の需要が戻らず、本格的なイベントの再開には程遠い状況が続いている。そのような中でも、感染症対策に工夫を凝らし、安心して利用いただける施設運営を継続しており高い満足度を維持している。 |
| 経営状況 | | 収益面において、貸館収入等の自主財源が令和2年度と比べると70%増加しているが、令和元年度までの3年間と比べて減収が続いている。しかし、費用面では、光熱費の削減などにより、支出を最低限に抑え、健全で安定的な運営ができています。 |
| 総括コメント | | コロナ禍においても経営効率の向上、文化交流ゾーンを意識した運営等を行うとともに、利用者満足度の向上に向けた各種サービスの改善、事業の実施に取り組んだ。中長期経営計画に掲げる目標についても、令和3年度に掲げた12項目の目標のうち6項目について目標を達成している。特に来館者満足度や各事業部門参加者満足度は、高い数値を維持している。今後も公益性と収益性のバランスを意識した事業を展開することにより、当事業団のミッションと目標達成に向けて取り組んでいく。 |

【知事等の審査及び評価結果】

- + : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)
 空白 : 団体自己評価結果と概ね同じ評価

| | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和3年度コメント |
|------|--------|-------|-------|-------|--|
| 目的 | 団体自己評価 | A | A | A | 県民の多様なニーズや文化を取り巻く状況の変化をふまえた各種事業の実施を通じて、県民の文化芸術の振興、生涯学習の推進及び男女共同参画社会づくりに寄与している。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 経営計画 | 団体自己評価 | A | A | A | 中長期経営計画では、来館者数や事業参加者数、施設利用率などの項目で目標値を下回ったが、これは新型コロナウイルス感染症の影響によるものであり、やむを得ないと判断する。一方で、利用者満足度は目標値を上回っており、評価できる。引き続き、感染症の状況を見極めつつ、経営計画に基づき取り組まれない。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 事業 | 団体自己評価 | A | A | A | 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業について来館者数が激減し、貸館についても厳しい状況が続いているが、感染症対策を徹底し事業を実施するとともに、光高速通信サービスなど新規事業にも取り組んでいる。引き続き、感染症対策を講じて、安全・安心な事業に取り組まれない。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 経営状況 | 団体自己評価 | A | A | A | 貸館収入等の収入は回復傾向にあるものの、令和元年度までの3年間と比べて減収が続いているが、光熱水費の削減など経費節減に努めることで、安定した運営を維持している。 |
| | 県の評価 | | | | |

《知事等の総括コメント》

| |
|--|
| <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に引き続き、来館者数や事業参加者数は激減しているものの、感染症対策を講じて事業に取り組み、利用者からは高水準の満足度を得るとともに、経費節減により財務状況においても安定した運営を維持している。</p> <p>引き続き、文化芸術活動等事業団の目的と指定管理の業務仕様に沿った事業を展開し、県の文化芸術及び生涯学習の振興、並びに男女共同参画社会づくりに寄与するとともに、アフターコロナを見据え、文化交流ゾーンの中核的な組織としての活躍を期待する。</p> |
|--|

| | |
|-----|-----------------|
| 団体名 | 公益財団法人三重県国際交流財団 |
|-----|-----------------|

【経営基本情報】

○団体の基本情報

| | | | |
|--------|--|-------|--------------|
| 所在地 | 津市羽所町700番地 | | |
| HPアドレス | http://www.mief.or.jp/ | | |
| 電話番号 | 059-223-5006 | FAX番号 | 059-223-5007 |
| 設立年月日 | 平成3年5月15日設立 平成16年4月1日財団法人三重県国際教育協会と統合 平成24年4月1日公益財団法人へ移行 | | |
| 代表者 | 理事長 金子 聡 | 県所管部等 | 環境生活部 |
| 県出資額 | 382,049,378 円 | 県出資割合 | 72.8% |
| 団体の目的 | 三重県の美しい自然と温かい県民性を生かした幅広い分野での国際交流活動及び国際協力活動並びに地域における多文化共生を推進することにより、地域の活性化と教育の向上を図るとともに、多文化共生社会の実現と諸外国の人々との相互理解・友好親善に資することを目的とする。 | | |

○主な事業内容

[事業規模]

(単位:千円)

| 事業名 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 備考 |
|------------------|--------|--------|--------|---------------|
| (1) 多文化共生社会推進事業 | 46,077 | 61,847 | 97,434 | |
| 全事業合計に占める割合 | 76.3% | 87.2% | 97.4% | |
| (2) 国際協力拡充事業 | 4,948 | 3,406 | 355 | |
| 全事業合計に占める割合 | 8.2% | 4.8% | 0.4% | |
| (3) 国際交流促進事業 | 5,355 | 1,510 | 285 | |
| 全事業合計に占める割合 | 8.9% | 2.1% | 0.3% | |
| (4) (1)~(3)以外の事業 | 4,023 | 4,198 | 1,923 | |
| 全事業合計に占める割合 | 6.6% | 5.9% | 1.9% | |
| 全事業合計 | 60,403 | 70,961 | 99,997 | 経常費用(事業費+管理費) |
| 全事業合計に占める割合 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | |

※各数値は千円未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。また、割合についても内訳の計が100%にならない場合があります。

[事業の概要]

- (1) 外国人住民に係る地域日本語教育、医療通訳、災害時の支援、子どもの教育等、多文化共生社会の推進
- (2) パラオ、在外県人会の活動や事業を支援
- (3) 日本・韓国の高校間交流の支援、県内国際交流団体等の調査、情報提供・情報発信
- (4) 管理業務等

○財務概況

| | | (単位:千円) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------------|------------------------------|---------|---------|---------|---------|
| 正味財産増減計算書 | 経常収益 (a) | | 61,210 | 73,728 | 111,486 |
| | 経常費用 (b) | | 60,403 | 70,961 | 99,997 |
| | 当期経常増減額 (c) = (a) - (b) | | 807 | 2,767 | 11,489 |
| | 当期経常外増減額 (経常外収益 - 経常外費用) (d) | | 0 | 0 | 0 |
| | 当期一般正味財産増減額 (e) = (c) + (d) | | 807 | 2,767 | 11,489 |
| | 当期指定正味財産増減額 (f) | | △20,298 | 1,100 | △2,469 |
| | 当期正味財産増減額合計 (g) = (e) + (f) | | △19,491 | 3,867 | 9,020 |
| 貸借対照表 | 資産 | | 700,936 | 708,604 | 720,789 |
| | 負債 (h) | | 11,114 | 14,915 | 18,079 |
| | 指定正味財産 (i) | | 642,578 | 643,678 | 641,210 |
| | 一般正味財産 (j) | | 47,244 | 50,011 | 61,500 |
| | 正味財産 (k) = (i) + (j) | | 689,822 | 693,689 | 702,710 |
| 負債・正味財産合計 (l) = (h) + (k) | | 700,936 | 708,604 | 720,789 | |

※各数値は千円未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

| | |
|-----|-----------------|
| 団体名 | 公益財団法人三重県国際交流財団 |
|-----|-----------------|

○財務に関する主な指標

| 指標 | | 計算式 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----|------------|-------------------|--------|--------|--------|
| 安定性 | 正味財産比率 | 正味財産／(負債＋正味財産) | 98.4% | 97.9% | 97.5% |
| | 借入金依存率 | 借入金／(負債＋正味財産) | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 経常比率 | 経常収益／経常費用 | 101.3% | 103.9% | 111.5% |
| | 自己収益比率 | 自己収益／経常収益 | 35.3% | 10.6% | 8.7% |
| 収益性 | 当期経常増減率 | 当期経常増減額／経常収益 | 1.3% | 3.8% | 10.3% |
| | 総資産当期経常増減率 | 当期経常増減額／(負債＋正味財産) | 0.1% | 0.4% | 1.6% |
| 効率性 | 人件費比率 | 人件費／経常費用 | 74.6% | 70.8% | 60.4% |
| | 管理費比率 | 管理費／経常費用 | 6.7% | 5.9% | 1.9% |

○役員員の状況

(※派遣職員は含まない)

| | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 備考 |
|--------|---------|-------|-------|-------|---|
| 常勤役員 | | 1人 | 1人 | 1人 | R3平均年齢※： — 歳 R3平均年収※： 理事、監事及び評議員の報酬規程により支給 |
| | うち、県退職者 | 1人 | 1人 | 1人 | |
| | うち、県派遣 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| 常勤正規職員 | | 6人 | 6人 | 6人 | R3平均年齢※： 46.8 歳 R3平均年収※： 4,743 千円 |
| | うち、県退職者 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| | うち、県派遣 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| その他職員 | | 2人 | 4人 | 7人 | 臨時職員7人 |
| | うち、県退職者 | 0人 | 0人 | 0人 | |

○県からの財政的支援など

| | (単位：千円) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------|---------|--------|--------|--------|
| 委託料 | | 21,292 | 46,810 | 83,956 |
| 補助金・助成金 | | 0 | 0 | 0 |
| 負担金 | | 0 | 0 | 0 |
| 借入金(期中に借り入れた額の合計) | | 0 | 0 | 0 |
| その他県支出金(追加出資額等) | | 0 | 0 | 0 |
| 計 | | 21,292 | 46,810 | 83,956 |
| 借入金残高(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |
| 債務保証額(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |
| 損失補償限度額 | | 0 | 0 | 0 |
| 損失補償契約に係る債務残高(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |

○団体の目標達成状況等

●中長期経営計画の策定の有無

| | | | | |
|---|------|--------------|---|--------|
| 有 | 計画期間 | 平成29年度～令和3年度 | 無 | 策定予定時期 |
|---|------|--------------|---|--------|

●中長期経営計画による目標及びその達成状況

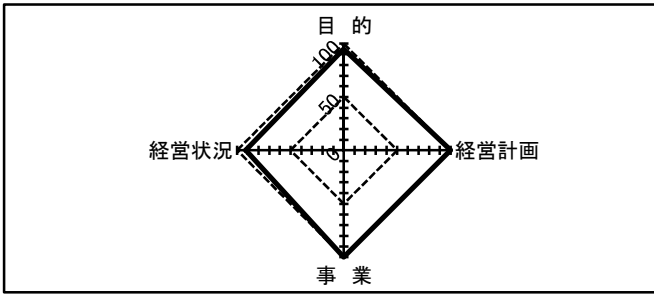
| | |
|----|--|
| 目標 | (1)多文化共生の社会となっていると感じる県民の割合37.3%、(2)多様な主体との連携・協働の事業割合85.0%、(3)多文化共生で連携する団体、企業等の数200団体 |
| 実績 | (1)33.9%、(2)88.0%、(3)195団体 |

●年次事業計画による達成目標

| | | |
|------|---------|---|
| 定性目標 | 令和3年度目標 | 多様な人々との連携・協働を基本として事業を実施するとともに、自主財源の確保に努める。 |
| | 令和3年度実績 | 関係機関・団体及び企業等との連携により事業を実施した。また、新型コロナウイルス感染症への対応に県と共に取り組んだことにより収益が増加した。 |
| | 令和4年度目標 | 団体、企業等と連携して多文化共生社会づくり事業を実施するとともに、自主財源の確保に努める。 |

| 定量目標 | 指標 | 数値目標 | 単位 | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|------|-----------------|------|----|----|-------|-------|-------|
| | 医療通訳普及促進事業研修理解度 | 100 | % | 目標 | | 100 | 100 |
| | | | 実績 | | 99.2 | 98.9 | |

【団体自己評価結果】



A(90%～100%) : 良好な事象や傾向がみられる
 C(30%～ 59%) : 改善を要する

| | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | |
|------|-------|----|-------|----|-------|----|
| | 比率 | 評価 | 比率 | 評価 | 比率 | 評価 |
| 目的 | 95 | A | 95 | A | 95 | A |
| 経営計画 | 100 | A | 100 | A | 100 | A |
| 事業 | 96 | A | 100 | A | 100 | A |
| 経営状況 | 92 | A | 92 | A | 92 | A |

B(60%～89%) : やや良好な事象や傾向がみられる
 D(0%～29%) : 大いに改善を要する

《団体自己評価表》

| | | | | | | | |
|---------------|-----------------------------------|---|----|---------------------------------------|-----|----|---|
| 1. 目的に対する評価 | | | | 比率 | 95 | 評価 | A |
| 1 | 団体の目的は現在でも社会的要請があるか | ① | 5 | 事業構成比率は団体の目的からみて適正か | | ① | |
| 2 | 民間企業等が事業の実施主体となることは不可能か | ② | 6 | 団体が設定している目標は、目的や行政目的の達成に寄与する指標となっているか | | ① | |
| 3 | 県との役割分担を踏まえ、団体で実施するメリットがあるか | ① | 7 | 社会経済状況に応じ経営改善に取り組んでいるか | | ① | |
| 4 | 事業内容は目的に対し意義・効果が認められるか | ① | 8 | 県民に対し情報公開・情報提供しているか | | ① | |
| 2. 経営計画に対する評価 | | | | 比率 | 100 | 評価 | A |
| 1 | 経営基本方針等を定め、役員・職員に浸透しているか | ① | 5 | 年次事業計画と実績との差異を分析し、改善しているか | | ① | |
| 2 | 中長期経営計画を策定し、運用しているか | ① | 6 | 中長期経営計画、年次事業計画は県の方針を反映したものとなっているか | | ① | |
| 3 | 外部環境、経営資源を把握、評価し、中長期経営計画に盛り込んでいるか | ① | 7 | 計画目標達成のため、人材育成・能力開発を行っているか | | ① | |
| 4 | 中長期経営計画と実績との差異を分析し、計画を見直しているか | ① | 8 | 計画の実施にあたり、進捗管理の体制が十分に整備されているか | | ① | |
| 3. 事業に対する評価 | | | | 比率 | 100 | 評価 | A |
| 1 | 団体の事業全体について、成果は十分に上がっているか | ① | 6 | 内部統制は十分に実施されているか | | ① | |
| 2 | 事業毎に目標を設定しているか | ① | 7 | 危機管理体制は十分に整備されているか | | ① | |
| 3 | 目標の達成状況を評価・活用しているか | ① | 8 | 組織体制は十分に整備されているか | | ① | |
| 4 | 顧客ニーズ及び顧客満足度を把握しているか | ① | 9 | 管理費比率及び人件費比率は適正か | | ① | |
| 5 | 顧客からの問い合わせ、意見等への対応は適切か | ① | 10 | 事業毎に損益を分析し、活用しているか | | - | |
| 4. 経営状況に対する評価 | | | | 比率 | 92 | 評価 | A |
| 1 | 収支の状況は健全であるか | ① | 6 | 開発用不動産等及び有価証券等の含み損益を把握しているか | | ① | |
| 2 | 累積欠損金が発生していないか、債務超過ではないか | ① | 7 | 債権管理は十分か | | ① | |
| 3 | 財務基盤についての指標は適正か | ② | 8 | 借入金は返済可能か | | ① | |
| 4 | 収益における県への依存度は適正か | ② | 9 | 基本財産や運用財産を適正に運用しているか | | ① | |
| 5 | 総資産当期経常増減率は適正か | ① | 10 | 必要な額の特定資産が設定されているか | | ① | |

※ 回答①=5点、②=3点、③=1点、④=0点とし各部門ごとに比率を算出しています。
 比率=(合計点)÷(総回答数×5点) ×100

| | |
|-----|-----------------|
| 団体名 | 公益財団法人三重県国際交流財団 |
|-----|-----------------|

《団体自己評価コメント》

| | | 令和3年度コメント |
|--------|--|---|
| 目的 | | 当財団は、地域における多文化共生を推進することで、地域の活性化と教育の向上を図るとともに、多文化共生社会の実現と諸外国の人々との相互理解・友好親善に資することを目的としている。新型コロナウイルス感染症に伴う入国制限が緩和され、地域を担う外国人材の増加が予想されることから、教育、福祉、医療、災害などの分野において、当財団に期待される役割は増大している。 |
| 経営計画 | | 中期計画に基づき事業を実施、展開しつつ経営基盤の強化に努めたところ、概ね基本目標指標は達成することができた。令和3年度で現中期計画が終了することから、新たに今後5年間の計画を定め、今後の指標を策定した。 |
| 事業 | | 多文化共生社会の推進、国際交流の促進及び国際協力の拡充の3つの柱のもとで事業を実施し、概ね目標値を達成することができた。特に、新型コロナウイルス感染症に係る外国人住民への対応に積極的に取り組んだ。今後も、県の施策等との整合性に配慮しつつ収益性の向上に努める。 |
| 経営状況 | | 県と共に新型コロナウイルス感染症に係る外国人住民への対応に積極的に取り組んだところ、令和3年度の当期経常増減額は11,489千円となった。今後も、緊急時の外国人住民への対応には、県と共に積極的に取り組むが、県からの受託事業は長期的には減少傾向にあり、この状況が続けば今後の事業継続に支障をきたすことから、さらなる経営改善に努める必要がある。 |
| 総括コメント | | 県出資の公益財団法人として、多文化共生社会の実現や地域の国際化を推進していく役割を十分に認識した上で事業の実施や財団経営にあたってきた。令和3年度は新型コロナウイルス感染症に係る外国人住民への対応に積極的に取り組んだことから11,489千円の黒字決算となったものの、安定した収入源の確保には至っていない。今後も、収入源の多様化を図りつつ、安定した運営、持続可能な経営体質への変換に努めるなど不断の経営努力を重ねていく。 |

【知事等の審査及び評価結果】

- + : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)
 空白 : 団体自己評価結果と概ね同じ評価

| | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和3年度コメント |
|------|--------|-------|-------|-------|--|
| 目的 | 団体自己評価 | A | A | A | 三重県は、総人口に占める外国人の割合が大きい都道府県として全国4位に位置している。外国人住民への対応や地域における多文化共生社会づくりの推進が求められる中、国が認定した地域国際化協会である三重県国際交流財団の役割は重要性を増している。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 経営計画 | 団体自己評価 | A | A | A | 「三重県多文化共生社会づくり指針」等の県の方針も反映した中期計画に基づいて事業を実施するとともに、経営基盤の強化に取り組んでいる。また、令和8年度までの中期計画は令和4年4月に策定している。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 事業 | 団体自己評価 | A | A | A | 事業毎に目標を設定し、成果を上げるとともに、次年度に向けた改善に努めている。令和3年度は特に、新型コロナウイルス感染症に係る外国人住民への対応に大きく貢献した。人件費比率は60.4%、管理費比率は1.9%と、ともに大きく改善した。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 経営状況 | 団体自己評価 | A | A | A | 新型コロナウイルス感染症に関連する事業の受託が増加したことにより、当期経常増減額は11,489千円で黒字となった。今後も収入源の拡大を図るとともに、日本語教材の販売、通訳・翻訳サービスの提供、寄附金や賛助会員の獲得など、自主財源の確保に向けた経営努力を要する。 |
| | 県の評価 | | | | |

《知事等の総括コメント》

県出資の公益法人として、医療通訳の普及、日本語教育の推進、外国人児童生徒に係る教育支援等の事業を、これまでに培った専門性やネットワークを生かし、着実に実施し、中期計画(平成29年度～令和3年度)や年次計画で設定した目標値を概ね達成している。また、新型コロナウイルス感染症という危機に対し、県と協調して、外国人住民への相談対応のほか、保健所等における通訳翻訳支援、ワクチン接種にかかる予約支援等に積極的に取り組んだ点を評価する。
 新たな中期計画(令和4年度～令和8年度)においても、引き続き自主財源の確保や経営体制の安定に努められたい。

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 一般財団法人三重県環境保全事業団 |
|-----|------------------|

【経営基本情報】

○団体の基本情報

| | | | |
|--------|--|-------|--------------|
| 所在地 | 津市河芸町上野3258番地 | | |
| HPアドレス | https://www.mec.or.jp/ | | |
| 電話番号 | 059-245-7505 | FAX番号 | 059-245-7515 |
| 設立年月日 | 昭和52年9月1日設立 平成25年4月1日一般財団法人へ移行 | | |
| 代表者 | 理事長 森 靖洋 | 県所管部等 | 環境生活部 |
| 県出資額 | 48,290,000 円 | 県出資割合 | 5.4% |
| 団体の目的 | 環境汚染を防止し、生活環境の向上を図るとともに、自然環境を保全等するため、環境保全事業を通じて県民の健康で文化的な生活の向上に寄与する。 | | |

○主な事業内容

[事業規模]

(単位:千円)

| 事業名 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 備考 |
|------------------|-----------|-----------|-----------|----------------------------------|
| (1) 最終処分場事業 | 1,707,420 | 1,420,765 | 1,613,157 | |
| 全事業合計に占める割合 | 68.7% | 67.0% | 69.3% | |
| (2) 科学分析事業 | 470,682 | 476,301 | 514,032 | 令和2年度より、環境分析事業から科学分析事業へ変更。 |
| 全事業合計に占める割合 | 18.9% | 22.5% | 22.1% | |
| (3) 環境コンサルティング事業 | 204,909 | 206,879 | 188,356 | 令和2年度より、環境調査事業から環境コンサルティング事業へ変更。 |
| 全事業合計に占める割合 | 8.2% | 9.8% | 8.1% | |
| (4) (1)～(3)以外の事業 | 102,481 | 15,729 | 13,240 | 国際規格審査登録事業は、令和元年度にて廃止。 |
| 全事業合計に占める割合 | 4.1% | 0.7% | 0.6% | |
| 全事業合計 | 2,485,492 | 2,119,674 | 2,328,785 | 売上高 |
| 全事業合計に占める割合 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | |

※各数値は千円未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。また、割合についても内訳の計が100%にならない場合があります。

[事業の概要]

- 産業廃棄物の最終処分
- 計量法に基づく濃度、音圧レベル、振動加速度レベルの計量証明事業等
- 環境アセスメント、自然環境調査等、環境コンサルティング、食品安全マネジメント監査、ISO14001・ISO9001に関する研修業務
- 三重県地球温暖化防止活動推進センター、三重県気候変動適応センター

○財務概況

| | | (単位:千円) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|----------|----------------------------|-----------------------|-----------|-----------|-----------|
| 損益計算書 | 売上高 | (a) | 2,485,492 | 2,119,674 | 2,328,785 |
| | 売上原価 | (b) | 1,644,272 | 1,333,126 | 1,632,415 |
| | 販売費・一般管理費 | (c) | 217,778 | 228,502 | 242,629 |
| | 営業損益 | (d) = (a) - (b) - (c) | 623,442 | 558,046 | 453,741 |
| | 経常損益(営業損益+営業外収益-営業外費用) | | 622,246 | 562,008 | 456,975 |
| | 当期純損益(経常損益+特別利益-特別損失-法人税等) | | 143,043 | 564,728 | 386,898 |
| 貸借対照表 | 資産 | | 9,337,699 | 8,514,849 | 8,913,250 |
| | 負債 | (e) | 4,805,024 | 3,417,446 | 3,428,949 |
| | 資本金(基本金) | (f) | 900,000 | 900,000 | 900,000 |
| | 剰余金(累積欠損金)等 | (g) | 3,632,675 | 4,197,403 | 4,584,301 |
| | 純資産 | (h) = (f) + (g) | 4,532,675 | 5,097,403 | 5,484,301 |
| 負債・純資産合計 | (i) = (e) + (h) | 9,337,699 | 8,514,849 | 8,913,250 | |

※各数値は千円未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 一般財団法人三重県環境保全事業団 |
|-----|------------------|

○財務に関する主な指標

| 指標 | | 計算式 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----|----------|----------------|-------|--------|--------|
| 安定性 | 自己資本比率 | 純資産／(負債＋純資産) | 48.5% | 59.9% | 61.5% |
| | 流動比率 | 流動資産／流動負債 | 79.0% | 182.4% | 220.9% |
| | 借入金依存率 | 借入金残高／(負債＋純資産) | 3.5% | 0.0% | 0.0% |
| 収益性 | 売上高営業利益率 | 営業利益／売上高 | 25.1% | 26.3% | 19.5% |
| | 総資産経常利益率 | 経常利益／資産合計 | 6.7% | 6.6% | 5.1% |
| 効率性 | 人件費比率 | 人件費／売上高 | 24.1% | 27.8% | 24.5% |
| | 管理費比率 | 販売費・一般管理費／売上高 | 8.8% | 10.8% | 10.4% |

○役職員の状況

(※派遣職員は含まない)

| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 備考 |
|---------|-------|-------|-------|------------------------------------|
| 常勤役員 | 3人 | 4人 | 4人 | R3平均年齢※: 64.5歳 R3平均年収※: 9,193千円 |
| うち、県退職者 | 2人 | 2人 | 2人 | |
| うち、県派遣 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| 常勤正規職員 | 52人 | 50人 | 51人 | R3平均年齢※: 38.7歳 R3平均年収※: 6,221千円 |
| うち、県退職者 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| うち、県派遣 | 0人 | 0人 | 0人 | |
| その他職員 | 56人 | 47人 | 48人 | 嘱託職員:29人、パートタイマー:16人 再雇用職員:3人 |
| うち、県退職者 | 4人 | 4人 | 4人 | |

○県からの財政的支援など

| | (単位:千円) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------|---------|--------|--------|--------|
| 委託料 | | 35,983 | 45,328 | 34,297 |
| 補助金・助成金 | | 0 | 0 | 0 |
| 負担金 | | 0 | 0 | 0 |
| 借入金(期中に借り入れた額の合計) | | 0 | 0 | 0 |
| その他県支出金(追加出資額等) | | 0 | 0 | 0 |
| 計 | | 35,983 | 45,328 | 34,297 |
| 借入金残高(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |
| 債務保証額(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |
| 損失補償限度額 | | 0 | 0 | 0 |
| 損失補償契約に係る債務残高(期末残高) | | 0 | 0 | 0 |

○団体の目標達成状況等

●中長期経営計画の策定の有無

| | | | | |
|---|------|-------------|---|--------|
| 有 | 計画期間 | 令和3年度～令和5年度 | 無 | 策定予定時期 |
|---|------|-------------|---|--------|

●中長期経営計画による目標及びその達成状況

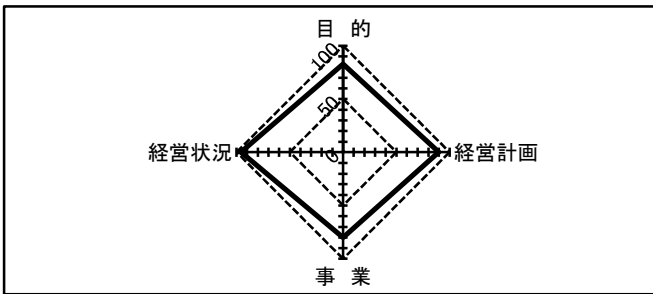
| 目標 | 実績 |
|---|--|
| ①経営力の強化(経営に関する新たな取組に挑戦するとともに、各部門の売上高及び利益率の向上を目指し、事業団全体の経営力の強化に努める。 ②職員力の強化(様々な研修や技術の研鑽により、高度な技術・幅広い知識を持つ人材の育成に努める。 ③情報力の強化(職員一人ひとりが営業意識を持ち、業界情報の把握と組織内共有を図るとともに、積極的な情報発信により優位性を発揮する。) | ①令和2年度より継続して、職員による業務監査を実施している。作業日報管理のシステム化については、導入費用との兼ね合いの結果、導入を見送ることとした。新規事業への取組として、若手職員によるワークショップを実施し、検討案を4つに絞り込んだ。 ②キャリア採用を実施し、2名の採用を行った。また、再雇用や専門知識を有する非正規職員からの技術継承を図るような計画書の作成を行った。 ③平成29年度より実施している三重県立総合博物館でのコーポレーションデーを実施し、事業団のPRを行った。 |

●年次事業計画による達成目標

| 定性目標 | 令和3年度目標 | 令和3年度実績 | 令和4年度目標 |
|------|--|---|--|
| | ①基幹事業である最終処分場事業における利益確保 ②最終処分場事業の安定的な継続のため増設計画の推進 | ①新型コロナウイルス感染症の影響も弱まり、また、一過性廃棄物の受入量も増加したことから、売上高は16億13百万円で令和2年度と比べ13.5%増となったが、経常利益は4億26百万円で令和2年度と比べ23.3%減となった。 ②三重県環境影響評価条例に係る評価書の公告と、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に係る変更許可を取得した。その他の関係法令の諸手続きも終え、本体工事について、総合評価方式による入札を実施し、令和4年2月に工事請負契約を締結するとともに、増設事業に係る資金計画及び収支計画についても見直しを行うなど、計画の推進を図った。 | ①基幹事業である最終処分場事業における利益確保 ②最終処分場事業の安定的な継続のため増設計画の推進 |

| 定量目標 | 指標 | 数値目標 | 単位 | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|------|------|------|---------|----|---------|---------|---------|
| | 当期利益 | | 295,959 | 千円 | 目標 | 649,067 | 209,301 |
| | | | | 実績 | 564,728 | 386,898 | |

【団体自己評価結果】



A(90%～100%): 良好な事象や傾向がみられる
 C(30%～ 59%): 改善を要する

| | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | |
|------|-------|----|-------|----|-------|----|
| | 比率 | 評価 | 比率 | 評価 | 比率 | 評価 |
| 目的 | 83 | B | 83 | B | 83 | B |
| 経営計画 | 85 | B | 90 | A | 90 | A |
| 事業 | 80 | B | 76 | B | 80 | B |
| 経営状況 | 91 | A | 96 | A | 96 | A |

B(60%～89%): やや良好な事象や傾向がみられる
 D(0%～29%): 大いに改善を要する

《団体自己評価表》

| | | | | | | | |
|---------------|-----------------------------------|---|----|---------------------------------------|----|----|---|
| 1. 目的に対する評価 | | | | 比率 | 83 | 評価 | B |
| 1 | 団体の目的は現在でも社会的要請があるか | ② | 5 | 事業構成比率は団体の目的からみて適正か | | - | |
| 2 | 民間企業等が事業の実施主体となることは不可能か | ② | 6 | 団体が設定している目標は、目的や行政目的の達成に寄与する指標となっているか | | ① | |
| 3 | 県との役割分担を踏まえ、団体で実施するメリットがあるか | ① | 7 | 社会経済状況に応じ経営改善に取り組んでいるか | | ① | |
| 4 | 事業内容は目的に対し意義・効果が認められるか | ① | 8 | 県民に対し情報公開・情報提供しているか | | ② | |
| 2. 経営計画に対する評価 | | | | 比率 | 90 | 評価 | A |
| 1 | 経営基本方針等を定め、役員・職員に浸透しているか | ② | 5 | 年次事業計画と実績との差異を分析し、改善しているか | | ① | |
| 2 | 中長期経営計画を策定し、運用しているか | ① | 6 | 中長期経営計画、年次事業計画は県の方針を反映したものとなっているか | | ① | |
| 3 | 外部環境、経営資源を把握、評価し、中長期経営計画に盛り込んでいるか | ① | 7 | 計画目標達成のため、人材育成・能力開発を行っているか | | ② | |
| 4 | 中長期経営計画と実績との差異を分析し、計画を見直しているか | ① | 8 | 計画の実施にあたり、進捗管理の体制が十分に整備されているか | | ① | |
| 3. 事業に対する評価 | | | | 比率 | 80 | 評価 | B |
| 1 | 団体の事業全体について、成果は十分に上がっているか | ② | 6 | 内部統制は十分に実施されているか | | ② | |
| 2 | 事業毎に目標を設定しているか | ① | 7 | 危機管理体制は十分に整備されているか | | ② | |
| 3 | 目標の達成状況を評価・活用しているか | ① | 8 | 組織体制は十分に整備されているか | | ① | |
| 4 | 顧客ニーズ及び顧客満足度を把握しているか | ② | 9 | 管理費比率及び人件費比率は適正か | | ① | |
| 5 | 顧客からの問い合わせ、意見等への対応は適切か | ① | 10 | 事業毎に損益を分析し、活用しているか | | ② | |
| 4. 経営状況に対する評価 | | | | 比率 | 96 | 評価 | A |
| 1 | 収支の状況は健全であるか | ① | 6 | 開発用不動産等及び有価証券等の含み損益を把握しているか | | ① | |
| 2 | 累積欠損金が発生していないか、債務超過ではないか | ① | 7 | 債権管理は十分か | | ② | |
| 3 | 財務基盤についての指標は適正か | ① | 8 | 借入金は返済可能か | | ① | |
| 4 | 収益における県への依存度は適正か | ① | 9 | 基本財産や運用財産を適正に運用しているか | | ① | |
| 5 | 総資産当期経常増減率は適正か | ① | 10 | 必要な額の引当金が設定されているか | | ① | |

※ 回答①=5点、②=3点、③=1点、④=0点とし各部門ごとに比率を算出しています。
 比率=(合計点)÷(総回答数×5点)×100

| | |
|-----|------------------|
| 団体名 | 一般財団法人三重県環境保全事業団 |
|-----|------------------|

《団体自己評価コメント》

| | | 令和3年度コメント |
|------|--|---|
| 目的 | | 環境汚染を防止し、生活環境の向上を図るとともに、自然環境を保全等するため、環境保全事業を通じて県民の健康で文化的な生活の向上に寄与する。 |
| 経営計画 | | 中期経営計画(令和3年度～令和5年度)に基づき、事業運営・人材育成等を行った結果、令和3年度は緊急事態宣言の発令や外出自粛要請の影響もあり、集客イベントを中止することはあったが、経済活動の回復兆しから産業廃棄物の受入量が増加し、事業全体では売上高・税引後当期利益ともに中期経営計画で設定した金額を達成することができた。 |
| 事業 | | 最終処分場事業では、新型コロナウイルス感染症の影響も弱まり、一過性の廃棄物が増加したこともあり受入量は127,400トンと令和2年度より16,100トン(14%)増加した。 科学分析事業では、新型コロナウイルス感染症の大きな影響はなく、引き続き顧客の多様なニーズに対し、丁寧かつ迅速な対応を図りながら、水道水質検査等業務や環境計量証明業務等、高い測定分析精度の確保と品質の高いサービスの提供により顧客満足度を高めた。 環境コンサルティング事業では、環境影響評価法及び三重県環境影響評価条例に基づく環境アセスメント業務を主として、環境調査業務、食品安全マネジメントシステム監査業務等、社会のニーズに適応した幅広いコンサルティング業務に取り組んだ。 社会貢献事業について、三重県気候変動適応センター事業では、気候変動の影響と適応に関する情報の収集、整理及び分析、普及啓発等に取り組んだ。三重県地球温暖化防止活動推進センター事業では、県民等を対象に、温室効果ガス排出量の削減に向けた啓発活動を実施した。 |
| 経営状況 | | 事業全体での売上高は23億28百万円で令和2年度と比べ9.9%増となったが、経常利益は4億56百万円で令和2年度と比べ18.7%減となった。これは、令和3年度に実施した小山最終処分場の是正措置(内部取引のため売上計上は実施せず)により、利益相当分が減額となったことによるものである。 |

| | |
|--------|---|
| 総括コメント | 令和2年度は経常利益が赤字であった環境コンサルティング事業が令和3年度は黒字となったことから、収益事業である3事業全ての経常利益が黒字となった。 現在、新小山最終処分場増設工事を実施しており、令和5年4月には金融機関より借入れを行う予定であることから、令和4年度は収支管理の徹底に取り組む必要がある。 |
|--------|---|

【知事等の審査及び評価結果】

- + : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)
 空白 : 団体自己評価結果と概ね同じ評価

| | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和3年度コメント |
|------|--------|-------|-------|-------|---|
| 目的 | 団体自己評価 | B | B | B | 県民の環境保全に対する意識が高まる中、環境汚染を防止し、生活環境の向上を図るとともに、自然環境を保全するため、廃棄物の適正処理、大気・水質・土壌等の分析測定及び自然環境調査などの事業を通じてその役割を果たした。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 経営計画 | 団体自己評価 | B | A | A | 中期経営計画に基づき、事業運営を行った結果、当期経常利益の黒字を確保するとともに、経営数値目標を達成したことは評価できる。引き続き、基本方針である経営力・職員力・情報力の強化に注力し、安定経営につなげることを期待する。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 事業 | 団体自己評価 | B | B | B | 社会のニーズに適応し、幅広い業務に取り組んだ結果、収益事業である3事業全てにおいて経常利益が黒字となった。また、基幹事業である最終処分場事業の増設に着手し、安定的な事業継続に取り組んでいる点は評価できる。 |
| | 県の評価 | | | | |
| 経営状況 | 団体自己評価 | A | A | A | 計画的な事業の遂行により、当期経常利益は黒字を確保した。自己資本比率が上昇し、流動比率も高く、累積欠損金及び借入金はなく、経営状況は安定している。今後も各事業の基盤を強化し、安定した経営を維持されたい。 |
| | 県の評価 | | | | |

《知事等の総括コメント》

県民の環境保全に対する意識が高まる中、各事業を通して地域の環境保全に寄与している。中期経営計画に基づき、基本方針である経営力・職員力・情報力の強化に注力し、経営の安定化に向けて取組を行った結果、収益事業の3事業全てにおいて、経常利益の黒字が確保されている。引き続き、安定した経営の継続に努められ、環境保全に関わる団体としての役割を果たすことを期待する。